

楽しく体験 パラスポーツ

11/24 安曇野パラスポーツフェスタ 2019

安曇野パラスポーツフェスタが堀金総合体育館で開かれました。パラリンピック競技のボッチャやブラインドサッカーのほか、2台の卓球台をくっつけて4チーム16人が座って対戦する4面卓球やカヌーのVR（仮想現実）体験など、子どもからお年寄りまで楽しめるイベントが行われました。

ブラインドサッカー体験では幼児や小学生約30人が、アイマスクを装着し、周りの掛け声や音が鳴るボールの音を頼りにサッカーを楽しみました。市川冬弥くん（三郷小6年）は「ボールの場所が分からなくて触れるのも難しかったけど、うまく蹴れると音も鳴って気持ちよかった」と笑顔で話してくれました。



先人の記録を後世に伝える

11/14・15 第45回全史料協全国(安曇野)大会

記録史料の保存利用活動に取り組む「全国歴史資料保存利用機関連絡協議会」の全国大会が、市内で2日間に渡り開かれました。全国から関係者など258人が参加。市文書館等を見学し、文書資料の保存・公開について、意見を交換しました。

14日に豊科公民館で行われた公開講演会では、独立行政法人国立公文書館の加藤丈夫館長が、公文書館が社会に果たす役割や、公文書館の専門職である「アーキビスト」の国家資格化へ向けた取り組みについて講演しました。15日に行われた討論会では、市文書館の設置の経緯を紹介したほか、県内の事例をもとに活発な議論が行われていました。



響きわたる 友好の絆

11/16 日本・オーストリア友好150周年記念コンサート

日本とオーストリアの友好150周年と市の姉妹都市である同国クラムザッハとの友好30周年を祝うコンサート（安曇野クラムザッハ友好会主催）が、豊科公民館で開かれました。

当日は3部構成のプログラムで、第1部では大阪フィルハーモニー交響楽団首席奏者の大森悠さんと地元音楽家の皆さんによるオーストリアのクラシック音楽、第2部ではプロヨーデル歌手の北川桜さんによる明るく力強いチロルのヨーデル、第3部は公募により集まった市内小学生も加わり、日本の童謡唱歌15曲のメドレーがそれぞれ披露されました。

会場である豊科公民館には、ほぼ満員となる約550人が訪れ、美しいハーモニーを楽しんでいました。

再生する里山に親しむ

11/17 明科荻原地区 更新伐跡地里山歩き

松枯れ被害が広がる中、荻原地区ではすべてのアカマツを伐採する更新伐事業を平成25年度から実施しました。現在では、里山に新たな広葉樹が芽吹き、本来の姿を取り戻しつつあります。その再生する里山に親しむを持ってもらいたいと、里山整備実施委員会や公民館などが主体となり「里山歩き」が開かれました。

当日は子どもから大人まで62人が参加。松枯れの仕組みや昔の里山の様子などの説明を受けながら散策した後、地域の竹を利用した木工体験、昼食には地元で採れたきのこ汁やおにぎりをふるまう交流会が行われました。参加した山下桜生くん（明北小2年）は、「山の中は、ホコリダケやキノコなど色々な発見があって楽しかった。」と地域の里山に親しんだ様子でした。



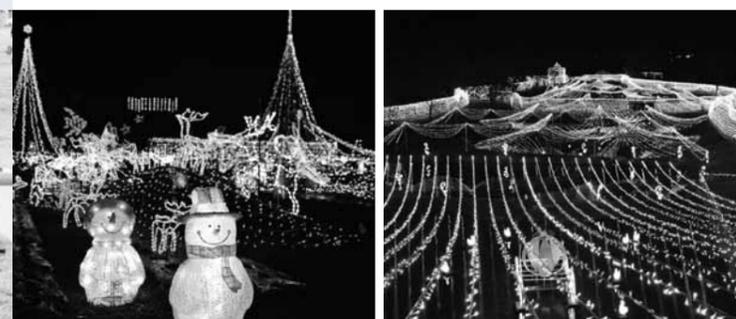
来場者に安曇野をPR

12/7 松本山雅FC vs 湘南ベルマーレ

サッカーJ1最終節の松本山雅FC対湘南ベルマーレ戦にてホームタウンデーが催され、ホームタウンである9つの自治体がブースを出展しました。安曇野市はレクリエーションスポーツや安曇野の素材を使ったスイーツなどのブースを出店し、来場者に特産品などをPRしました。

山雅のサッカースクールに通っている曾根原叶くんは「今日の試合は3対0で勝ってほしい。将来は山雅に入って活躍したい」と力強く話してくれました。

試合は1対1で引き分け、松本山雅FCは17位でシーズンを終えました。来シーズンはJ2に戦いの舞台を移します。



光が彩る 安曇野の冬

安曇野神竹灯・市内イルミネーション

第9回安曇野神竹灯（実行委員会主催）が12月6日から8日まで穂高神社で開かれ、来場者は境内を彩る約1万本の竹灯籠の幻想的な灯りや神楽殿で行われたコンサートを楽しみました。

また、国営アルプスあづみの公園（堀金・穂高地区）ではシンデレラの舞台を表現したイルミネーションが、安曇野の里では「安曇野からつなぐ心と光の輪」をテーマにしたイルミネーション（Azumino. 光のページェント実行委員会主催）が開かれています。来場者は安曇野の冬を彩る光の演出を、写真を撮りながら楽しんでいました。期間は、国営アルプスあづみの公園が1月5日（日）まで、安曇野の里は1月31日（金）までです。